



常盤平団地のスターハウス



21世紀の森と広場

R6.11.11 第16回松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会

地方創生SDGs産学官民連携推進事業について (デジタル田園都市国家構想交付金)

令和5年度事業実績

松戸市総合政策部政策推進課SDGs推進担当室

本事業において活用している交付金について

デジタル田園都市国家構想交付金の概要



- デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化する観点から、「デジタル田園都市国家構想交付金」により、各地方公共団体の意欲的な取組を支援。

デジタル田園都市国家構想交付金

デジタル実装タイプ

- デジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費などを支援。

書かない窓口



地域アプリ



遠隔医療



地方創生拠点整備タイプ

- 観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備などを支援。

道の駅に隣接した観光拠点



子育て支援施設



スタートアップ支援拠点



地方創生推進タイプ

- 観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組などを支援。

- ・ 地方版総合戦略に位置付けられた地方公共団体の自主的・主体的な取組を支援（最長5年間）
- ・ 東京圏からのUターン促進及び地方の担い手不足対策
- ・ 省庁の所管を超える2種類以上の施設（道・污水处理施設・港）の一体的な整備

外部有識者の意見聴取

地域産業構造転換インフラ整備推進タイプ

- 産業構造転換の加速化に資する半導体等の大規模な生産拠点整備について、関連インフラの整備への機動的かつ追加的な支援を創設。

大規模生産拠点
整備プロジェクト

選定

プロジェクト
選定会議

(参考)松戸市の地方創生SDGsの推進について

◆2022年(令和4年度)、松戸市は内閣府より 「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定

松戸市SDGs未来都市計画の概要

1.地域特性と課題及び目標	松戸市は都心から20kmの距離に位置し、交通アクセス性の高さと豊かな自然を兼ね備えた住宅都市である。人口は、高度経済成長期に首都圏のベッドタウンとして急増し、現在も社会増による微増を続け一般市では最多となる約50万人となる。その一方、人口爆発の礎を築いた大規模団地は建物の老朽化や住民の少子高齢化が進むなど、地域コミュニティの在り方を検討していく必要がある。またZ世代の市内定着性の低さも課題となり、Z世代が地域に愛着を持つための仕組みづくりも必要である。
2.全体計画の概要	松戸市は、高度経済成長期は東京の人口爆発の受け皿としていち早く全国各地の住民を受け入れ発展を遂げた寛容性の高い住宅都市である。「やさシティ、まつど。」のオープンマインドとすぐやる精神を活かし、SDGsを共通言語に、多様な主体との共創による持続可能なSDGs未来都市を目指す。

3.関連するゴール



4.2030年のあるべき姿

多世代がともにいきいきと思い思いに暮らすことができる やさシティまつど
～つよくなやかに
みんなで松戸の新たな時代を創ろう～

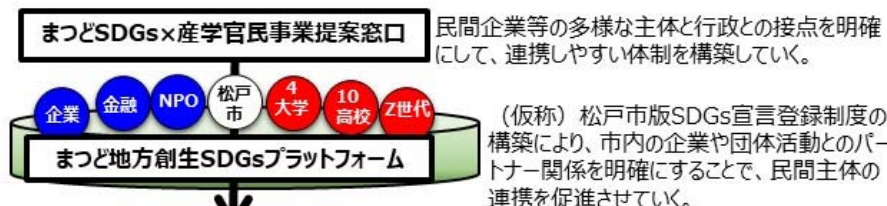
・市の重要施策「子育て・教育・文化を軸とした都市ブランドづくり」、「地域共生社会の実現」、「多文化共生の実現に向けた取組」をベースに、Z世代を起爆剤に地域課題の自分ゴト化を進め、誰一人取り残さない持続可能なコミュニティの形成を目指す。

・SDGsを共通言語に、産学官民の連携・参画を推進する。

5.自治体SDGs推進等に向けた取組

三側面をつなぐ統合的取組：「Z世代」と「多様な主体」との共創による「まつどSDGsキャラバン」の推進

「まつどSDGs×産学官民連携窓口の設置」、「まつど地方創生SDGsプラットフォームの設置」、「まつどSDGsキャラバンの推進」という3つのプロセスを明確にすることで、Z世代と市内外の多様な主体によるSDGsへの貢献を進展・昇華させ、地域資源が好循環する仕組みを構築する。



まつどSDGsキャラバン

「常盤平団地エリアのリ・ブランディング」をテーマに、Z世代が常盤平団地エリアの課題と目指すべき街のビジョンを提案し、Z世代の入居促進や交流促進につなげていく。ビジョンの実現に向けて、ステークホルダーの連携・協働の場となるまつどSDGsキャラバン推進会議を設置するとともに、地域の大学等と連携し、エリアの地域資源を活用したウォーキングコースの設定や住民参加型イベントの実施なども推進していく。

6.他地域への展開見込(普及効果)

○Z世代による地方創生SDGsの推進：Z世代が地域の多様な主体と接点を持ち、地域の将来を自分ゴトとしてとらえ、新たな人や仕事の流れを生み出す仕組みは、全国への水平展開が期待できる。
○団地再生の視点：日本の高度経済成長を象徴する大規模団地は、建物の老朽化、住民の少子高齢化などの課題を抱えており、Z世代を起爆剤とした地域コミュニティの活性化に向けた取り組みは、全国への水平展開が期待できる。



野田大臣(当時)
より選定証授与



常盤平団地エリアをモデル地区として設定して取組推進

地方創生SDGs産学官民連携推進事業の概要について

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)

申請者	千葉県松戸市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5～R9年度(5年間)	令和5年度事業費 (交付額1/2)	11,777千円(5,888千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ(横展開型)	事業分野(詳細)	生涯活躍のまち分野
目的(効果)	1 多様な主体のアイデアやノウハウを活かし地域課題の解決を図るため、SDGsに取り組む企業・団体等と連携し、SDGsをきっかけとした産学官民の連携を促進する。 2 SDGsネイティブとも言われるZ世代を主体にSDGsの観点を軸に地域との関わりを深め、本市での就職率・愛着率を高める。 3 大学等との共同研究及びその成果を活用し、産学官民連携を軸とした多世代交流を推進する。		
令和5年度事業概要・主な経費	1 SDGsを原動力にした産官学連携促進 ①まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度/セミナー実施(委託料) ②まつどSDGs×産学官民連携事業提案窓口 ③常盤平地域を中心としたSDGsの推進に係る会議(報償費等) 2 Z世代による事業推進 Z世代による活動に係る推進事業(委託料) まつどSDGsキャラバン推進事業((株)ミライノラボ) 3 産学官民連携による多世代交流の推進 ①住民の健康増進に向けた共同研究(委託料) 健康プログラムTOKIWALK(トキウォーク)設置・活用(千葉大) ②大学等による住民参加型イベント補助(補助金)		

令和5年度に実施した事業の実績

1 SDGsを原動力にした産官学連携促進

① まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度

本市におけるSDGs達成に向けた機運を醸成することを目的に、本市に関わりのある企業・団体等が、自らのSDGs達成に向けた取り組みについて考え、宣言書を作成し、市に申請・登録する制度。令和5年8月開始。

チラシ・ロゴによるPR



セミナーの実施（計2回）

<第1回:令和6年1月25日(木)>

表 題:知らないのはもったいない？SDGs経営に取り組む意義
概 要:変わりゆく社会の中でSDGs経営に取り組む意義を解説
参加者:16名

<第2回:令和6年2月15日(木)>

表 題:SDGsに向け自ら取り組む課題を特定する方法とは
概 要:具体的にSDGsに向けて取り組む課題の設定方法を体験
参加者:7名

③ 常盤平地域を中心としたSDGsの推進に係る会議

SDGsの達成に向け、市民、企業、各種団体等のステークホルダー及びZ世代と連携し、常盤平団地エリアのSDGsの取り組みを総合的かつ効果的に推進するため、「まつどSDGsキャラバン推進会議」を開催。(令和5年度は3回開催)

② まつどSDGs×産学官民連携 事業提案窓口

民間企業等の提案・アイデアを活かして行政課題を解決する産学官民連携活動を推進するため、SDGs未来都市計画に基づき令和5年1月に設置した事業提案窓口。市の「オンライン申請システム」から、常時提案を受け付け。

連携事例:保育士目線の見える化企画『まなざしプロジェクト』

連携事業者…(株)明日香 子ねくとうラボ

保育分野において、熟練の保育士のスキルや知識を還元し組織レベルでの質向上を実現させる取組み。「保育士の目線」を動画化し活用することで、職員間のフィードバックや情報共有等を効果的に実施。

取り組みの流れ



保育課と協働し、二十世紀が丘保育所にて実証実験を実施した。
(令和6年2月提案受付、5～6月実証実験実施)

令和5年度に実施した事業の実績

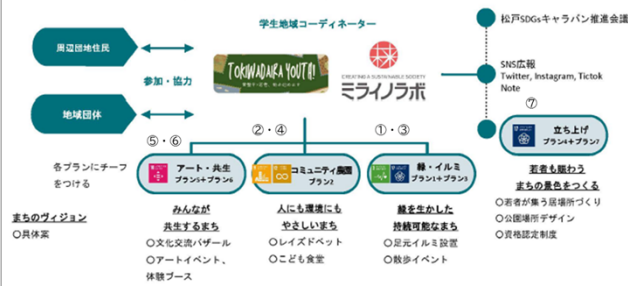
2 Z世代による事業推進

Z世代による事業推進

本市の産学官民連携においては、市内在学・在住のZ世代が事業に主体的に関わり、Z世代の視点で地域課題の解決や多世代交流を目指していくこととし、令和4年度に策定したアクションプランに基づき取り組みを実施。

Z世代が作成したアクションプラン

常盤平団地エリアにおける持続可能なまちづくりについてのアクション・プラン(令和4年度策定)



① 足元イルミ アクションプラン

活動の背景

夕方から夜間にかけての団地内の暗さが課題として挙げられた。



令和5年度の活動

足元を照らす電飾の常設化を図るために、実証実験を行う。



・令和6年3月23日(土)
SDGsミニ・イルミネーションイベント実証実験実施



③ ウェルネス アクションプラン

活動の背景

健康×まちづくり常盤平の良さを活かし、住む人が健康になるまちをつくりたい。



令和5年度の活動

年3回のイベントを実施し、ルートを作成するほか新たなサインを17か所設置。



・TOKIWALK関連イベントに、サポートとして参加
・TOKIWALKを活用し「TOKIWALKプロギングツアー」を実施

⑤⑥多文化共生×アートワークショップ アクションプラン

活動の背景

アートを通じて、日本人と外国人が交流できるまちをつくりたい。



令和5年度の活動

多文化共生をテーマにした、オリジナルフラッグを作るアートワークショップを開催。



・「古着でオリジナルフラッグづくり」ワークショップを3回実施

④⑦常盤平×若者 アクションプラン

活動の背景

常盤平団地の自然の中で若者も集まるまちをつくりたい。



令和5年度の活動

Z世代がディスカッションする会としてMeetupを実施。



・参加メンバー 約20人(聖徳大、千葉大、流経大 等)
・Meetupを8回開催(常盤平エリアでのディスカッション)

令和5年度に実施した事業の実績

3 産学官民連携による多世代交流の推進

① 住民の健康増進に向けた共同研究(TOKIWALKトキウォーク)

TOKIWALKとは、常盤平団地及び団地周辺の公園等に設置されたチェックポイントを巡ることで、地域の豊かな緑を楽しみながらウォーキングを促す健康プログラム。UR都市機構の協力のもと、松戸市と千葉大学予防医学センターの共同研究として実施。

健康プログラム「TOKIWALK」設置・活用

■ 令和5年度実績：市民やZ世代の意見を取り入れつつ、チェックポイント(看板等)の設置を完了(R4:7か所→22か所)



イベントのチラシ(全3回)



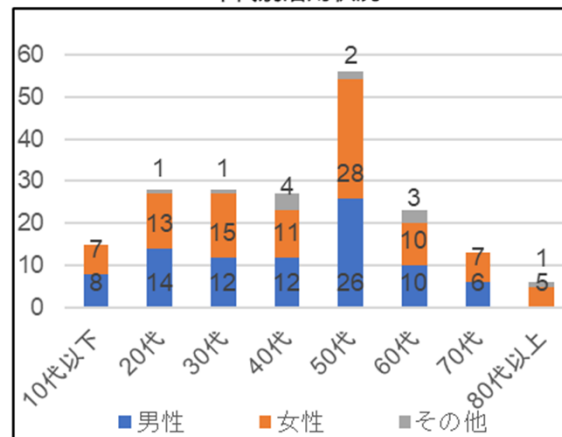
イベントの様子

<当初のマップ>



■ 令和5年度までのTOKIWALKアプリ活用実績

年代別活用状況



◆登録者数196人
(男性88, 女性96, その他12)
◆平均年齢45.9歳

利用回数が多い利用者

順位	属性(総利用回数)
1位	76歳女性(665回)
2位	84歳女性(300回)
3位	74歳女性(268回)
4位	52歳女性(227回)
5位	62歳女性(115回)

(データ出典: 千葉大学予防医学センター)

<チェックポイント増設後のマップ>



令和5年度に実施した事業の実績

3 産学官民連携による多世代交流の推進

② 大学等による住民参加型イベント補助

市内4大学に対し、常盤平団地エリアにおいて地域課題の解決につながり、住民も一緒に参加できるイベントを実施した際に補助を行うもの(1回最大200,000円)。(松戸市大学等連携SDGs推進事業費補助)

市内の大学等主催の住民参加型イベント支援

■ 令和5年度事業実績(4回実施)



**みんなでつくる「暮らしの庭」2024
植え替え・バスボム(入浴剤)作り**
3月23日(土) 10:00~11:30(終了予定)
雨天時：バスボム作りのみ実施

集合 常盤平団地 望のひろば
対象 お子様からご高齢の方まで
(汚れてもいい服装でお越しください)

植え替え
千葉大学が設置した「暮らしの庭」でハーブや草花を新たに植え替えます。成長したハーブや草花は一輪挿しや薫味・ハーブティなどに使えます！植物に興味あるなし関係なく一緒に植え替えてみませんか？

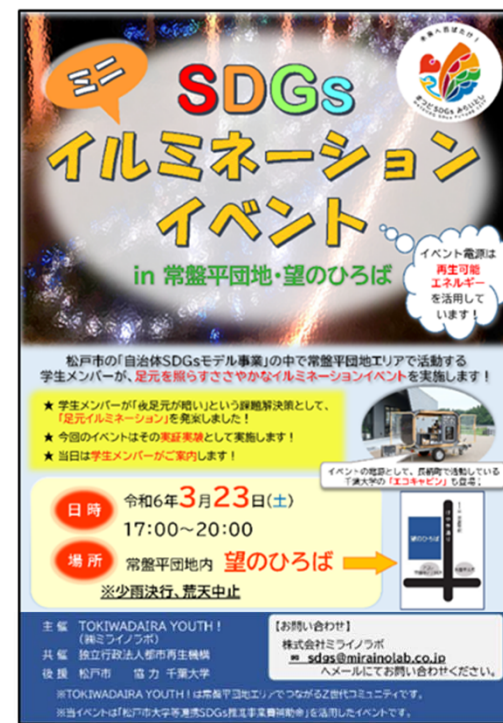
バスボム(入浴剤)作り
楽しくおしゃべりしながら世界でたった一つのバスボムを作りましょう！暮らしの庭にある、香りのよいハーブを使っておしゃれなバスボムを作れます！

主催：千葉大学 園芸学部 緑地環境管理学 柳井研究室
共催：UR都市機構 協力：常盤平団地自治会
mail: tokiwadaira2021@gmail.com

千葉大学園芸学部(柳井研究室)
「暮らしの庭」(4月、3月) 計2回



流通経済大学
地域共創プロジェクト(2月)



**SDGs
イルミネーション
イベント**
in 常盤平団地・望のひろば

イベント電源は再生可能エネルギーを活用しています！

松戸市の「自治体SDGsモデル事業」の中で常盤平団地エリアで活動する学生メンバーが、足元を照らすさまざまなイルミネーションイベントを実施します！

- ★ 学生メンバーが「夜足元が暗い」という課題解決策として、「足元イルミネーション」を発案しました！
- ★ 今回のイベントはその実証実験として実施します！
- ★ 当日は学生メンバーがご案内します！

日時 令和6年3月23日(土)
17:00~20:00
場所 常盤平団地内 望のひろば
※少雨決行、雨天中止

主催 TOKIWADAIRA YOUTH!
(株ミライラボ)
共催 独立行政法人都市再生機構
後援 松戸市 協力 千葉大学

お問い合わせ先
株式会社ミライラボ
sdgs@mirainlab.co.jp
メールにてお問い合わせください。

※TOKIWADAIRA YOUTH!は常盤平団地エリアでつながる世代コミュニティです。
※当イベントは「松戸市大学等連携SDGs推進事業費補助金」を活用したイベントです。

TOKIWADAIRA YOUTH!
SDGsイルミネーションイベント
in 常盤平団地望のひろば(3月)

本事業のKPIの設定について

本事業は、SDGsの達成を原動力とした産学官民の連携強化とそれに伴う地域課題解決推進を目的とするとともに、Z世代の学生が主体的に関わり、Z世代の視点で地域課題の解決や多世代交流を促進する事業を実施することで、Z世代の本市への愛着を高めることにもつながるという考え方から、以下のKPIを設定。

KPI① SDGs産学官民連携に係る提案マッチング数（回）

KPI② 「まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度に登録した事業者数（者）」

KPI③ 「まつどSDGsキャラバン」に参加するZ世代数（人）

KPI④ 市内4大学の在学生における市内就学率及び就職率（％）

令和9年度まで継続

最終目標値 140回

最終目標値 520者

最終目標値 90人

最終目標値 6.7%

KPI① SDGs産学官民連携に係る提案マッチング数（回）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	—	20回	30回	30回	30回	30回	140回
実績	0回	5回	—	—	—	—	5回
差分	—	▲15回	—	—	—	—	▲135回

令和5年度KPIは「未達」。（▲15回）

理由：提案受領数そのものが少なく、受領した提案についてもヒアリングを実施するに至らないものがあったため。

令和6年度以降の取り組み方針

- ・ まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度におけるセミナー・交流会での周知啓発
- ・ 様々な媒体を通じた本提案窓口の活用提案・PR
- ・ 実施事業を官民連携の好例として庁内で情報共有
- ・ 提案しやすいスキームへの改善

本事業のKPIの推移及び今後について

KPI② 「まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度」に登録した事業者数（者）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	—	400者	30者	30者	30者	30者	520者
実績	0者	60者	—	—	—	—	60者
差分	—	▲340者	—	—	—	—	▲460者

令和5年度KPIは「未達」。(▲340者)

理由：8月から制度開始であり、一定の周知活動は実施したものの、制度が浸透せず申請件数が少なかったため。

令和6年度以降の取組み方針

- ・制度の認知度向上のため、松戸商工会議所等と連携したPR活動の実施
- ・既存のPR手法の積極的な活用及び新たな手法の検討・実施
- ・セミナーや交流会等のインセンティブ強化

KPI③ 「まつどSDGsキャラバン」に参加するZ世代数（人）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	10人	40人	20人	10人	10人	10人	90人
実績	32人	84人	—	—	—	—	116人
差分	+22人	+44人	—	—	—	—	+26人

令和5年度KPIは「達成」。(＋44人)

理由：参加者募集や活動の情報発信について、市内大学の協力が得られたため。

令和6年度以降の取組み方針

- ・常盤平団地エリアにとどまらない市内全域を対象とした活動の実施
- ・Z世代とまつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度登録者との交流促進
- ・Z世代ならではのアイデアを活用した情報発信

KPI④ 市内4大学の在学学生における市内就学率及び就職率（％）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
KPI目標	—	5.5%	6.0%	6.5%	6.6%	6.7%
実績	5.0%	4.8%	—	—	—	—
差分	—	▲0.7%	—	—	—	—

令和5年度KPIは「未達」。(▲0.7%)

理由：市内の該当する学生が増えなかったため。

令和6年度以降の取組み方針

- ・学生の市への愛着につながるような魅力向上に資する事業の推進